



山口県立大学  
Yamaguchi Prefectural University

2025  
年度

# 山口県立大学高大接続事業

## 大学生による 高校生のための

### はーと♡ふくし講座&はーとボランティア講座



## 報告パンフレット

～一緒に「福祉」を学ぼう～



### はじめに

山口県立大学社会福祉学部では、これまで大学生による高校生のための講座として「はーと♡ふくし講座」、「はーとボランティア講座」を毎年開催してきました。現在、この講座は山口県立大学高大接続事業として位置づけられています。今年度も、たくさん的高校生が参加してくださいました。この報告パンフレットでは、今年度行った講座の報告をいたします。

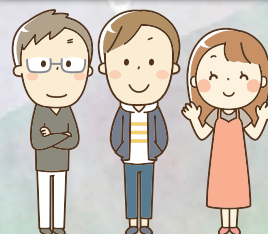
### ～これまでの活動～

これまで教職課程で学んできた先輩たちが大学生による高校生のためのふくし講座を行ってきました。そのバトンをつないで、今年度も教職課程3、4年生による高校生のためのふくし講座を企画・実施しました。

4年生は、3年次に受講した「福祉科教育法Ⅰ」「福祉科教育法Ⅱ」の授業において、福祉教育の意義や必要性について理解を深め、福祉の授業実践として模擬授業を実施しました。その学びをもとに、高校生にわかりやすい講座を企画するために準備を進めました。3年生は、「福祉科教育法Ⅰ」の学びをもとに教材研究をすすめ、2回目以降の授業プログラムの立案やグループワークの方法を考えました。この講座は、福祉教育を「共に生きる教育」「共に学びあう教育」として捉えています。そこで、社会福祉学部で学ぶ学生と、福祉を学んでみたいと考える高校生が、共に学び合う、アクティブ・ラーニングを導入した学習プログラムを立案しました。

全3回の講座を通して、高校生にくふくしを伝えるとともに、教職を目指す私たちにとっても貴重な学びの機会になりました。大学生と高校生と一緒に学ぶことができる「はーと♡ふくし講座」と「はーとボランティア講座」が継承され、福祉の心(はーと)の輪が広がることを願っています。

この講座は、平成26年度入学の教職課程4年生が中心となって開始しました。これまで10年間実施し、延べ500人以上の高校生が参加しました。中には山口県立大学社会福祉学部に入学者になった人もいます。参加して下さった皆様のご協力に感謝します。





# 高校生に伝えた福祉

～アクティブ・ラーニングを通して高校生と大

## 第1回 は一と♡ふくし講座

社会福祉学部 3、4年生

2025年5月23日(金) 18:30~20:00

「聴覚障害のある人の生活と言語(手話)を学ぼう。」

### 目的

- ・聴覚障害について理解し、手話について学ぶ。
- ・共生社会の一員として、聴覚障害のある人にどのように支援することができるのか考える。
- ・手話クイズを通して、手話について詳しくなる。

### 様子

高校生13名、保護者・引率の先生3名が参加しました。第1回の講座では、「聴覚障害」をテーマに掲げ、共に生きることの意味について高校生と一緒に考えました。まず、特別支援学校の役割や聴覚障害の特性について学習し、視覚的な教材として紙芝居を用いたり、手話の役割について理解を深めたりする時間を設けました。その後、「聴覚障害のある人と共に生きていくために自分にできること」をテーマにグループワークを行い、活発な意見交換を行いました。ワークシートへの記入や気づきの共有を通じて、多様な人々が暮らす地域社会への関心を高め、主体的に自分たちの役割を見出せるよう工夫しました。参加した高校生からは、「手話を学ぶことが相手を知る第一歩になると感じた」という感想や、「地域には色々な人がいることを知り、自分たちにできる小さなサポートを考えて



いきたい」といった前向きな意見が寄せられました。また、「手話をもっと社会に広められるよう私が手話について詳しくなりたい」などの意見が出ました。

山口県立大学高大接続事業

## 第2回 は一と♡ふくし講座

社会福祉学部 3年生

2025年6月21日(土) 10:30~12:00

高校生対象

ふだんのくらしの幸せを支える社会福祉

保護者・教員対象

山口県立社会福祉学部での学び

### 目的

- ・「ふくし」について大学生と一緒に考え、「ふくし」を理解する。
- ・私たちの身近で活かされている「ふくし」について大学生とともに考える。
- ・大学生が実習やボランティアを通して学んだことを聞き、「ふくし」について考える。

### 様子

高校生33名、保護者・引率の先生22名が参加しました。第2回の講座では、福祉の基本となる考え方について学習し、それらを踏まえたうえで福祉のテーマである「ふだんのくらしをシェアせに」とはどのようなことなのかについて高校生と一緒に考えました。また、大学生から実習を通して学んだことについて分野ごとのエピソードを高校生に伝えてもらいました。その後のグループワークを行い、高校生と交流しながら講義で学んだことについて共有を行いました。グループワークは、大学生1、2名に対し、高校生4~5名で行い、全員が意見を出しやすい雰囲気を作ることを心がけました。

この講義を通じて高校生からは、「みんなが幸せで充実した暮らしを送るために自分から周囲の人との関わりをもとうとした



り、お互いに思いやりをもって生活することが大切とわかった」「福祉の基本を再認識することができて良かった」などの感想がありました。



## 第3回 はーとボランティア講座 社会福祉学部 3年生

2025年7月25日(金) 18:30～20:00

「大学生の活動から学ぼう～共生社会の構築におけるボランティアの役割～」  
「障害を知って共に生きるために～共生社会の担い手「あいサポーター」になろう」

### 目的

- ・大学生のボランティア活動、福祉系ボランティア活動を知り、「ふくし」について理解する。
- ・山口県あいサポート運動を知り、共生社会の一員として自分にできることを考える。
- ・グループワークを通して、「ふくし」について深く考えることができるように意見を共有する。

### 様子

県内の高校生13名、保護者、引率の先生4名が参加しました。

第3回の講義では、ボランティアについて、あいサポーターについて高校生、大学生のみんなで考えました。あいサポーターの説明の部分では、「ふくし」について一緒に考え、アクティブラーニングを取り入れながら授業に工夫を凝らしていきました。グループワークの部分では、大学生の福祉系サークルの話を取り入れ、実際にボランティア活動をしていると発見があったりする部分、発表では伝えることのできないボランティア活動について参加した高校生と大学生で共有しました。今回の講義では、参加した高校生に、ボランティア活動について考えてもらいました。もっと知りたいことの中で、ふくし、ボランティアについて今回の学びで学習することができたので地元に戻って実践してみたいなどの声が聞かれました。



## 高校生の感想・これから学びたいこと

～ふくしを大学生と学んで、ふくしに興味を持ってもらいました～

聴覚障害のある人の生活や手話を言語として考えることを学んで、障害福祉に興味を持ちました。手話は自分で勉強して覚えたいです。

「ふくし」について学ぶことはほとんどなかったので、とても勉強になりました。将来、大学生のように、社会福祉に携わる仕事を目標してみたいと考えました。

グループワークで大学生と一緒に講座の内容をふりかえることで、とても大きな学びとなりました。大学生は、実習やボランティア等、体験を通して、学んでいることがわかりました。「ふくし」への興味が深まりました。

あいサポーター研修を受けて、はじめて知ったこともあり、驚きました。あいサポートバッジをつけて、少しでも役に立つ活動がしたいと思います。

共生社会について、「ふくし」という考え方で、学ぶことができたことは貴重でした。高校生でできることは、まずは、「知ること」「理解すること」ということが印象的でした。

この講座を受けて、山口県立大学社会福祉学部に入學して、今日、出会った大学生のようになりたいと思いました。



## 大学生の感想

～講座の企画・運営を通してたくさんのことを学ぶことができました～

「共に生きる、共に学ぶ」をテーマに、聴覚障害の特性理解から、地域社会を支える福祉の仕組みまでを包括的に構成しました。特に、大学生のボランティア活動を具体例として提示することで、共生社会が「誰か」によって作られるのではなく、自分たちの日常の延長線上にあることを意識してもらえよう工夫しました。ワークシートを埋めていく中で、高校生が「地域には多様な人がいる」という事実に触れ、自らの役割を前向きに模索する変化を感じられたことが最大の成果です。この企画運営を通じて、私自身も対話による福祉教育の重要性を改めて学ぶことができました。

高校生にわかりやすく「ふくし」を伝えるために、社会福祉学部で学ぶ私たち大学生の学びや経験を通して、学習プログラムを考えました。これまで福祉を学ぶ立場だった私が、福祉を伝える立場になることに、最初は不安や緊張がありました。しかし、高校生の皆さんが興味を持って私たちの話を聞いてくださったり、一緒に福祉について考えてくださったりして、とても嬉しかったです。また、高校生の皆さんからの意見や感想を通し、私自身もさらに福祉について理解を深めることができました。貴重な経験をありがとうございました。ここでの経験と学びを今後活かしていきたいです。



高校生、大学生ともに、ふくしについて深く考え、学ぶとても良い機会になりました。

今年度開催した講座の様子を、  
大学HPと大学YouTubeで  
紹介しています。



### はーと♡ふくし講座

第1回 5月22日(金) 18:30～20:00 〈福祉〉について大学生と一緒に学ぼう

### 山口県立大学高大接続事業

第2回 6月20日(土) 9:30～11:30 障害のある高校生の生活と家族の思いを知ろう(仮)  
〈保護者・教員向け〉

「社会福祉学部の紹介ー山口県立大学社会福祉学部での学びー」

### はーとボランティア講座

第3回 7月31日(金) 18:30～20:00 大学生の活動から学ぼう



2026年度  
の予定

## おわりに

今回も高校生をはじめとする多くの方々に参加していただいたことに感謝いたします。高校生と一緒に「ふくし」を学ぶことを通して、私たちは初心に帰ったり、新たな気づきがあったり、多くの学びを得ることができました。また、これからも多くの人に「ふくし」を伝えていこうと思えました。この講座を開催するにあたりご協力いただいたすべての皆様に感謝いたします。ありがとうございました。

「高大接続事業」スタッフ一同

## 編集 後記

今年度も多くの高校生との出会いを通じ、私たちが刺激を受ける貴重な学びの機会となりました。特に、全3回の講座すべてに足を運んでくれた生徒さんもあり、その「ふくし」を深く知りたいという熱意は、運営側の大学生にも強く伝わってきました。来年度も継続して開催する予定です。日程などの詳細は、山口県立大学のホームページ等をご確認いただければ幸いです。これからも、さらに深い学びを共に追求できるよう、私たちが精一杯努めてまいります。今後とも「はーと♡ふくし講座」および「はーとボランティア講座」にたくさんの高校生が参加されることを願っています。



社会福祉学部教職課程3年生・4年生一同